

きのつバス利用状況分析業務について

I きのつバス IC カードデータ分析

①R6 平日の利用状況

・利用者が最大の便は、平日 17:32 高の原発の木-1 であり、約 35 人の利用がある。利用者が最小の便は、土休日 14:44 鹿背山発の木-2 であり、利用者は約 2 人であった。全ての便において 1 人以上の利用があった。

・便数あたりの乗車人数が最も多い区間は、木-1 の木津～市坂南口間であり、平日約 6.6 人/便であった。平日においては、木津駅～山田川駅、ハイタッチ・リサーチパーク～兜台四丁目、木 - 1 の木津駅～州見台地域、木 - 3 の山田川駅～宮ノ前、木津本町～相楽は 3.5 人以上の利用があった。土休日においては、木津～州見橋東間にて 3.5 人以上の利用があった。

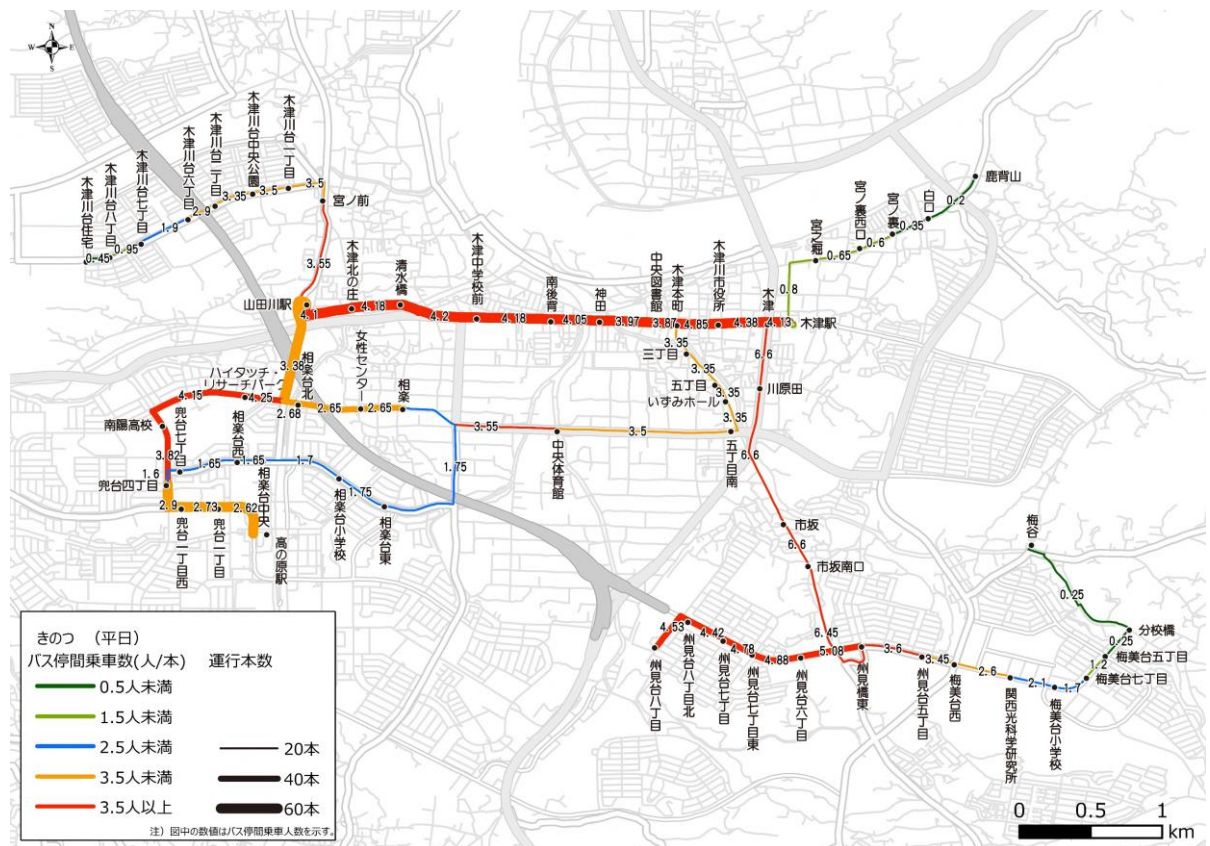


図 1 本あたりバス停間乗車人数 (R6 平日)

② 1日あたりの利用者数の推移

・R5年度からR6年度にかけてはきのつバス各路線において利用者数が9～23%増加した。R6年度からR7年4～8月にかけては木-2の平日利用を除いて3～14%増加した。特に、木-1の土休日、木-3において利用者数が1割以上増加した。

路線	平休	R5年度	R6年度(対前年度比)	R7年4月～8月(対前年度比)
木-1	平日	220.9	264.3(+20%)	271.7(+3%)
	土休日	103.7	127.6(+23%)	141.1(+11%)
木-2	平日	89.0	96.6(+9%)	94.9(-2.8%)
	土休日	45.4	50.9(+12%)	53.1(+4.3%)
木-3	平日	175.5	203.6(+15%)	229.9(+13%)
	土休日	89.6	102.7(+15%)	117.2(+14%)

※R7.9～12に半額キャンペーン実施

③ 高の原梅美台線一部廃止の影響分析

・高の原梅美台線の一部廃止(R6.4～)が木-1の利用増加につながっていると考えられる。  
 ・平日、土休日ともに梅美台・州見台地域～木津駅付近におけるバス利用は、路線バス廃止により減少した。一部は平城山駅、JR奈良駅への利用に転換したが、全体では減少した。

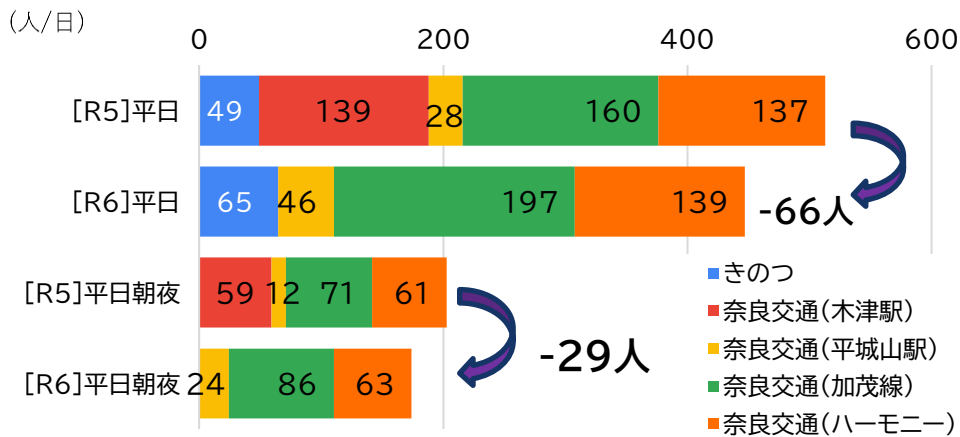


図 梅美台・州見台地域から木津駅・平城山駅・JR奈良駅までのバス利用者数推移(平日)

④ 運賃半額キャンペーンの効果

・運賃半額により、各路線で2～3割利用が増加した。  
 ・運賃半額期間終了後のR8年1月においても、利用が増加した。

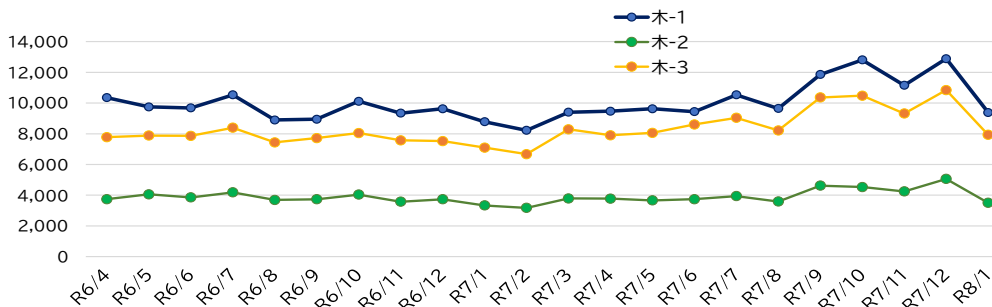


図 R6年4月からR8年1月までの1日あたり乗降車客数推移

## II 利用者アンケート分析

(アンケート実施方法)

- ・アンケート用紙 (R7. 9. 28~29 配布) と WEB (バス停に二次元コード掲示) で実施。
- ・有効回収数は 446 票。(アンケート用紙: 327 票、WEB 回収: 119 票)
- ・調査内容は、当日のバス利用、普段のバス利用、改善すべき点など。

### ①バスの利用状況

- ・朝夕は 10 歳代や 20~64 歳の利用が多く、11・12 時台は 65 歳以上が過半数であった。

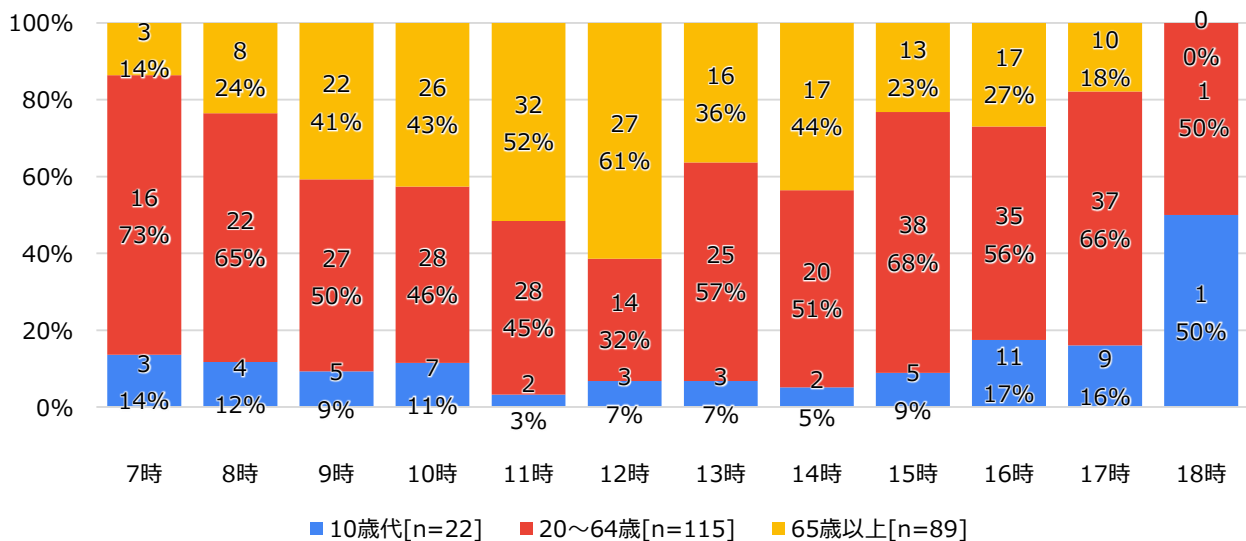


図 時間帯別利用年齢

- ・往復ともに利用した人は全体の約 5 割であり、行きのみ利用した人が約 3 割、帰りのみ利用した人が約 2 割であった。

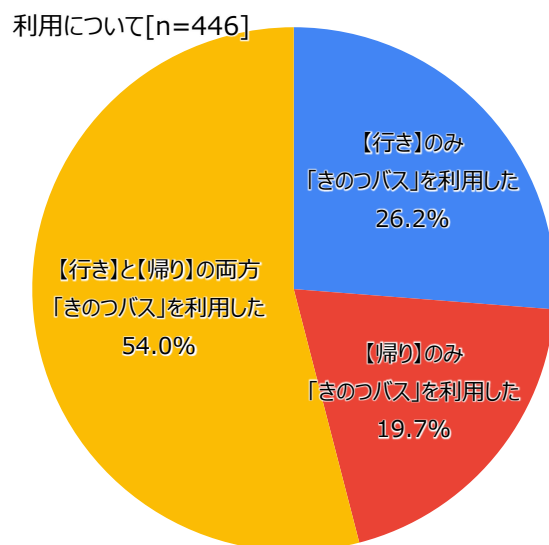


図 往路・復路の利用

②きのつバス利用頻度

・週 1～2 回が約 23%で最も多く、次いで、月 2～3 回が (約 22%)、週 3～4 回が (約 21%) となっている。

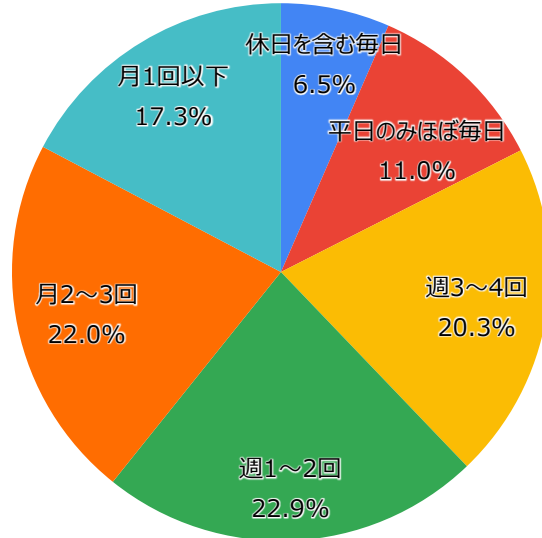


図 バスの利用頻度[n=415]

・週 1 回以上利用している人では、自分で運転はしておらず、日常的に運転してくれる家族・知人もいない人の割合が 1 番高くなった。

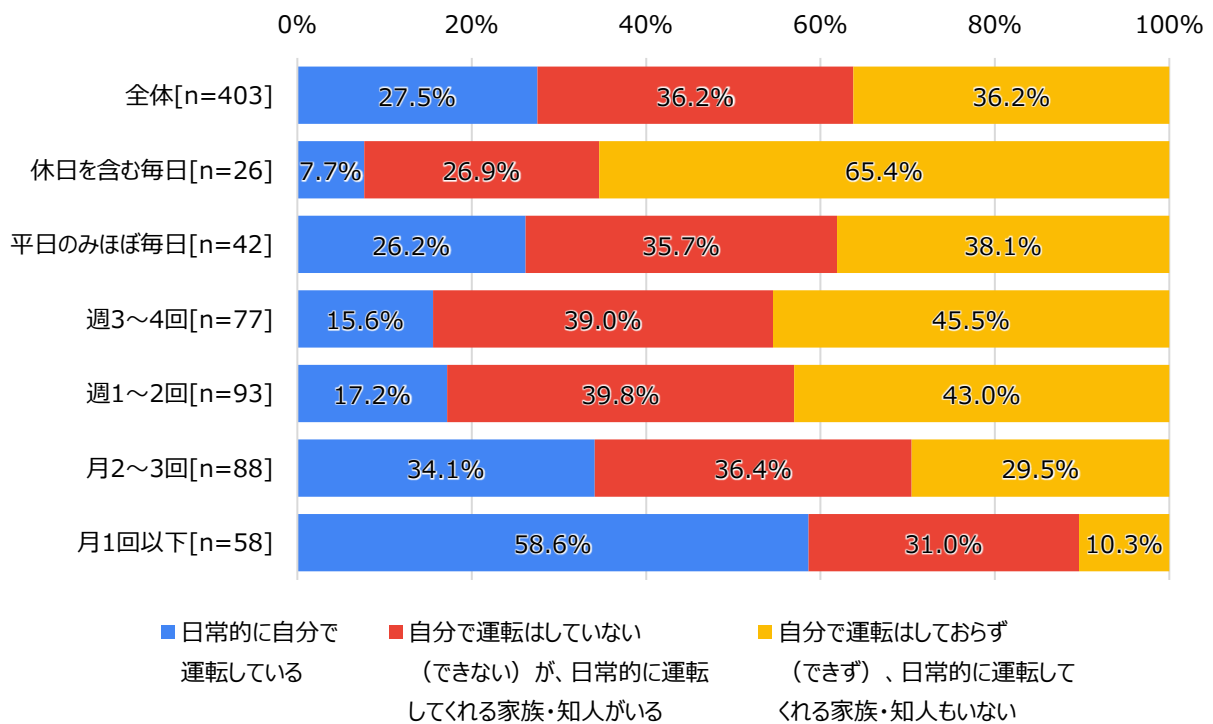


図 利用頻度別自動車の利用状況[n=403]

③バス利用にあたって不便に思う点、改善すべき点

・全体では、運行本数と運行時間帯の回答割合が最も大きい。地域別では、梅美台・梅谷地域にて運行本数の回答割合が最も大きく、城山台、木津・木津町地域にて運行時間帯の回答割合が大きい。

・経由してほしい行き先では、城山台が最多となった。(24人/70人)

【バスを利用するにあたって不便に思う点や改善すべき点と思う点】

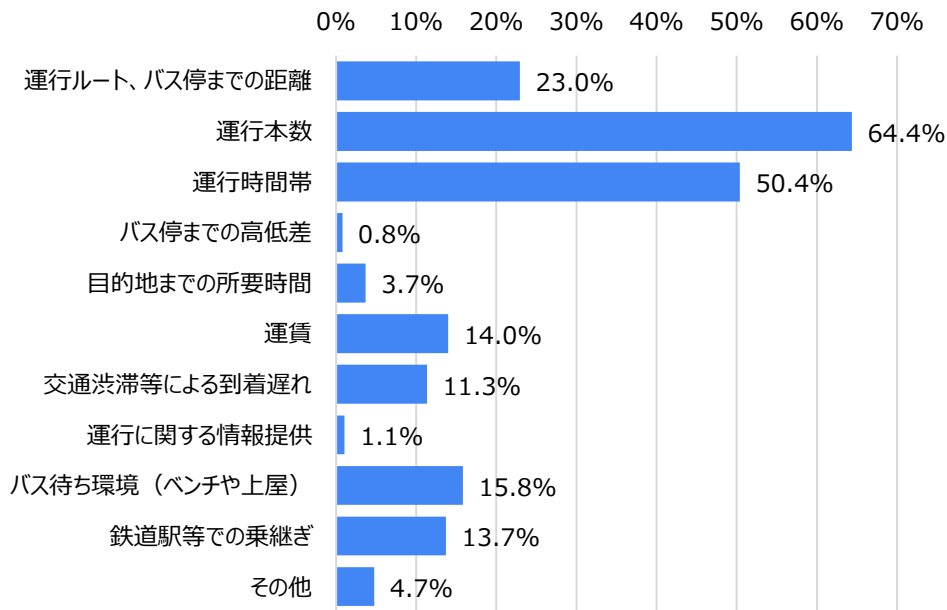


図 バスを利用するにあたって不便に思う点や改善すべき点と思う点[n=379]

表 経由してほしい行き先(5以上の回答のみ)[n=70]

経由してほしい行き先	回答数
城山台	24
精華台	7
祝園/新祝園	6
梅美台～木津(城山台経由)	5

表 居住地別経由してほしい行き先[n=69]

経由してほしい行き先	回答数	木津・木津町・鹿背山	梅美台・梅谷	州見台・市坂	城山台	兜台	木津川台	山城
城山台	24	6	2	6	8	1	0	0
精華台	7	2	0	0	0	2	3	0
祝園/新祝園	6	0	0	0	0	0	3	1
梅美台～木津(城山台経由)	5	0	4	1	0	0	0	0

#### ④運賃半額キャンペーンによる利用の変化

・全体では約4割が利用が増えたと回答し、65歳以上において利用が増えた(利用回数が増えた、または値下げをきっかけに利用し始めた)との回答が多くなった。20代と65～69歳、75～79歳において値下げをきっかけに利用し始めたとの回答が多くなった。

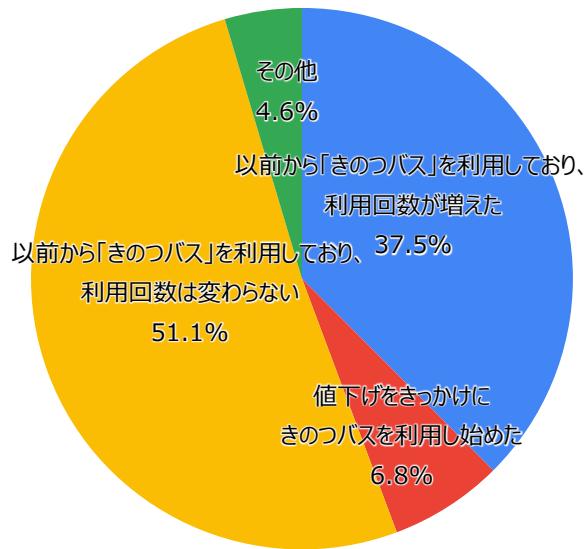


図 運賃半額による利用の変化[n=413]

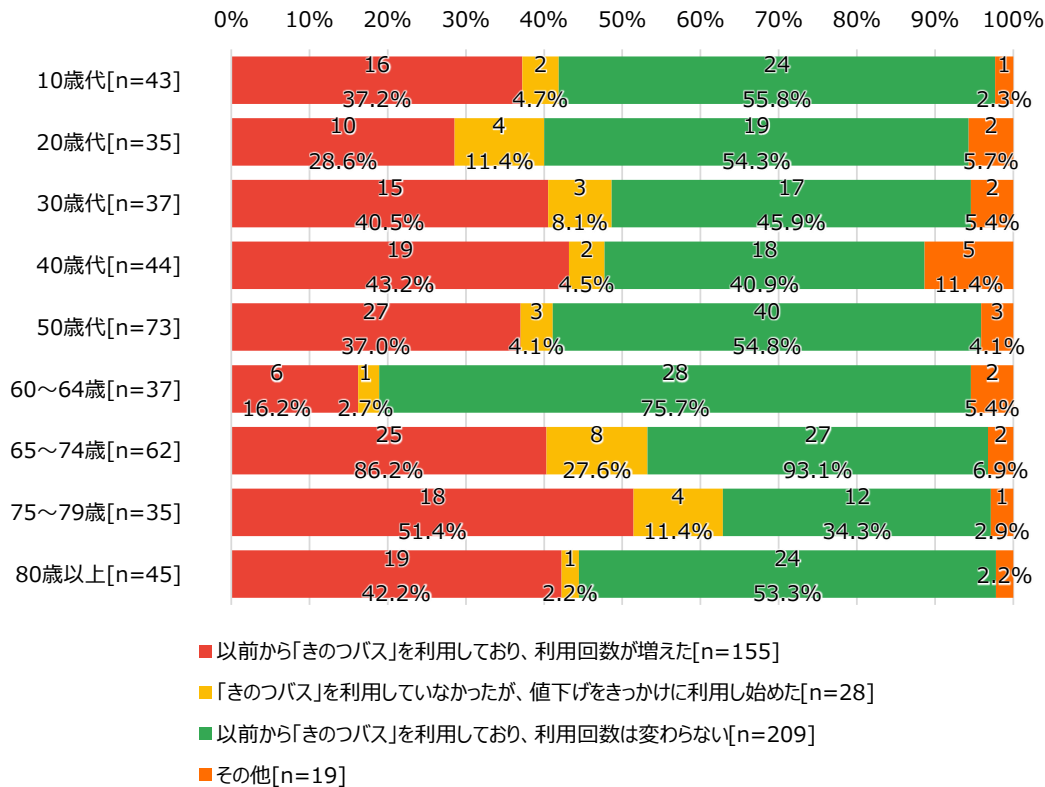


図 年齢別きのつバスの利用変化[n=414]

- ・自動車を利用しづらい人ほど運賃半額キャンペーンによって利用が増えた。

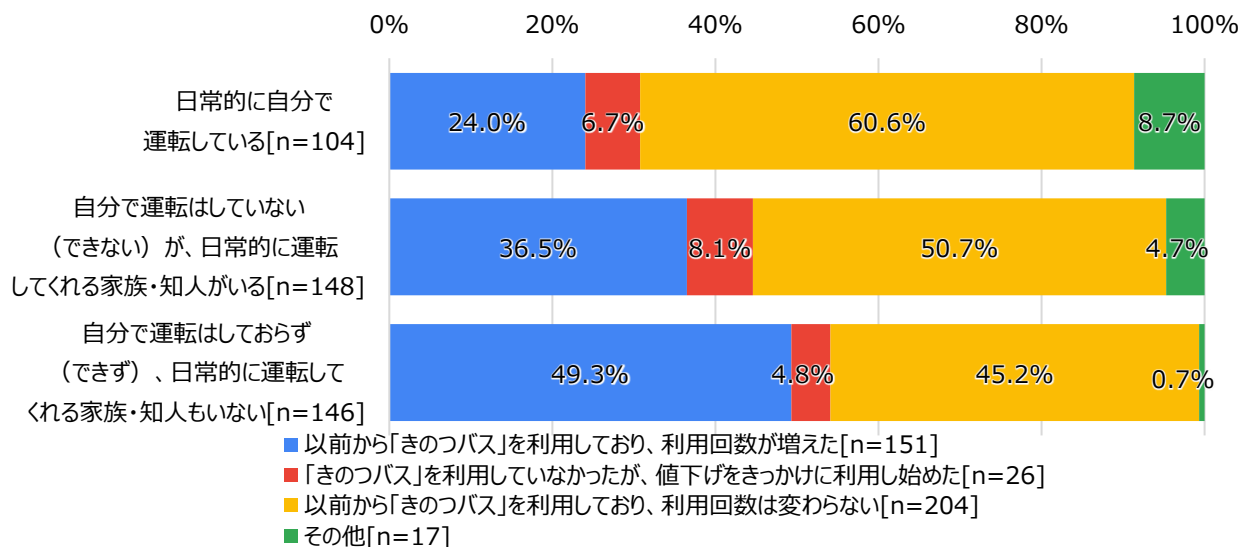


図 運転状況別きのつバスの利用変化[n=401]

### III きのつバスの現状について

・きのつバスの利用者数はR5年度からR6年度に12%増加した。特に木-1は、平日・土休日とも20%以上増加している。R6年度からR7年4~8月にかけては全体で4%増加し、特に木-3の利用者数増加割合が高く、8%増加した。また、木-1、木-3は、日中時間帯の利用が多くなっており、地域の高齢化が要因と考えられる。

・1便あたりのバス停間乗車人数では、平日において3系統が重複し運行本数が多い区間(木津駅~山田川駅)で3.8人以上の利用があった。

・木津駅、山田川駅、高の原駅、木津川市役所、中央図書館、梅美台地域、州見台地域、兜台地域、木津川台地域のバス利用が多く、居住地から駅や公共施設を繋ぐというコミュニティバスが目的としている利用がある。

・運賃半額キャンペーン期間中の利用は2~3割増え、約7%が新たにバスを利用した。また、自動車を利用しづらい人や、目的地が商業施設である人は、運賃半額により利用が増えたとの回答が多くなった。

### IV 現在の課題について

- ・近年、運行経費増加に伴い、市の財政負担額が増加している。
- ・駅や公共施設、住宅地からの利用は多いが、地域(バス停)ごとに利用者数に差がある。
- ・利用者アンケートでは、ルートやダイヤに関して改善を求める声が多くなっている。